

[2] LPガス流通の現状

7割がプロパン、3割がブタン

編集部

一口にLPガスといっても、大きくみて2つに分類されます。1つはプロパンガスで、主に家庭の燃料などに使われ、全体の約7割を占めています。もう1つがブタンガスで、主として工業用やオートガスに使われており、約3割を占めています。

LPガス全体の年間生産量は世界で約2億トン。うち製油所から石油製品生産の過程で出るのが約39%、ガス田や油田で原油をくみ上げるときに出る随伴ガスが61%といわれています。日本のLPガスの使用量は2004年度で約1,790万トン。うち輸入が1,372万トン(約77%)、原油を精製する過程で国内の製油所から出るのが418万トン(約23%)といわれています。もっとも、原油はほとんどを輸入しているので、それを考慮すると、実質的には100%近くが輸入品といえます。

輸入先ではサウジアラビアが517万トン(37.7%)、アラブ首長国連邦が314万トン(22.9%)、クウェートが150万トン(10.9%)などとなり、全体の実に85.3%が中東地域からとなっています。

家庭用が4割強占める

主な用途は家庭業務用が783万トン(43.7%)、工業用が460万トン(25.7%)、化学原料用が209万トン(11.7%)などで、電力、ガス、自動車などでも使われています。特に、家庭用は約2,800万件にも及んでおり、地方

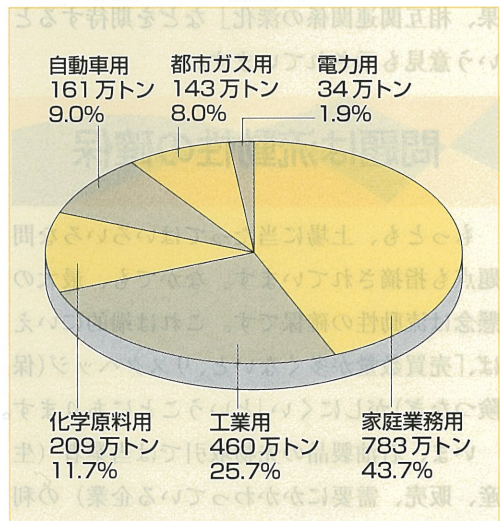
都市では重要なエネルギー源になっています。

LPガスは燃やすと二酸化炭素と水になり、温暖化ガスの発生量も石油、石炭よりはるかに少なく、自動車に使った場合は一酸化炭素排出量がガソリンより約1割少ないクリーンなエネルギーといわれています。しかも分散型のエネルギーのため、災害などにも強いという利点もあります。

このため「エネルギー基本計画」でも、「都市ガスとともにガス体エネルギーとしてとらえるとともに、競争環境の整備などを通じ、より一層のガス利用者の利益の増進を図るものとする」としています。

先物取引の開始はこの競争環境の整備に資するものであり、その面でも、上場は急がれるといえるでしょう。

2004年度LPガス需要量



出所：経済産業省資源エネルギー庁(2004年度)